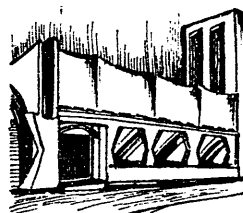


ニュース断片

西ドイツ社会民主党の 社会保障計画



ドイツ社会民主党 SPD の 1970 年連邦（西ドイツ）党大会が、5月11日から14日まで、ザールブリュッケンで開かれた。この党大会は、現在 SPD が第2次世界大戦後初めて連邦レベルで首相を立てているだけに、いろいろな意味で、非常な関心を集めた。この党大会において、ゴードスベルク綱領の社会政策案が再確認され、諸領域における特権の撤廃による社会民主主義の実現を図ることに関し、種々討議がなされた。キリスト教民主同盟 CDU の社会政策については、公的疾病保険 gesetzliche Krankenversicherung の給付に対する財政関与はともかくとして、家庭の負担に対する補助がもっとなされるべきであったという批判がなされている。この党大会に

おいては、実に多数の提案がなされた。1,000以上の提案のうち、約150が、狭義の社会政策的問題にかかわるものであった。そのうち、約20が満場一致で議決され、他の大部分は、連邦議会やラント議会の SPD 議員団に、また党幹部に手渡された。それらの提案のうち、社会保障に関連するものの要旨は、次のようなものである。

家庭に関する問題

家庭の問題は重要な問題である。幼稚園等の施設が不足しているうえに、その設立が宗教的な色彩を帯びているのであるが、教会等の設立に関する優位性は撤廃されるべきであった、公的なイニシアティブが容易に行なわ

れるようにすべきである。これにかんして、青少年福祉法 JWG および連邦社会扶助法 BSHG にもとづく福祉団体に対する扶助原則は制限されるべきであって、自治体に幼稚園等の設置を義務づけるべきである。また、主婦および母親も現代の生産社会においては、その意思があり能力があるかぎり、職業に就くことを妨げられるべきではない。また、主婦および母親の重大な疾病の場合には、少なくとも部分的には、公的疾病保険の費用をもって、家庭看護婦がつけられるようにすべきである。

また、家庭において休暇中に、しばしば多くの重大な災害が生じることがあるから、より効果的な災害予防のための啓蒙運動が強く求められるし、いわゆる「機械保護法」Maschinenschutzgesetz の保護規定における意味の管理も強化されなければならない。また、1957年の大規模な年金改革以前には、公的年金保険 gesetzliche Rentenversicherung の範囲内において、自助または任意継続保険の手段によって、主婦年金を達成する可能性があったのである。しかし、法律で保証されたこ

の恩恵は、その時に廃止され、主婦年金に対する期待権は失われて現在に至っている。これら家庭に関する問題を解決するために、家庭政策に関する委員会を召集し、家庭政策の計画が練られるべきである。

保健政策

より大きな問題として、保健政策がある。とりわけ、公的疾病保険は、現代の健康保障政策の範囲内において、更に発展させられるべきである。具体的には、次のようなことがなされるべきである。すなわち、病院保護の経済的保障に関する法律（病院財政法）の制定、入院給付の無制限な期間の保障（ベルリン方式）、労働・社会医療の整備、医学研究計画の整備、職員 Angestellte に対する疾病保険加入義務の限界の除去および公的疾病保険の保険料算定報酬限度額と公的年金保険のそれとの一致等である。

老齢および廃疾の場合の社会保障

これらの場合における保障は一応なされてはいるが、いまだ満足すべきものではない。

E・シェレンベルク Ernst Schellenberg 教授がすでに1965年に提案したように、労働組合によってなされる保護は限られたものであって、自営業者をも含めた「国民保険」 Volksversicherung が熱望される。目下の老齢保障レベルの間の格差が検討されるべきである。企業による老齢保障に頼るべきでもない。ドイツ労働総同盟 DGB の要求と一致するのであるが、これまで固定的だった停年は弾力的なものにされるべきである。

社会計画の手段

社会計画は、将来においては、社会予算によってなされるべきである。労働市場、職業、失業の調査が強力に行なわれて、必要とされる情報がただちに引き出せるようにされなければならない。

ヨーロッパ経済共同体内における労働法および社会法の規定の調達について、多くの提案がなされた。また国内における社会法および労働法を総括的な法典によって明瞭にすることに関する提案もなされた。労働大臣 W・アレント Walter Arendt は、すでに社会法

典のための建議をなすべき委員会を召集した。また、保健大臣 K・シュトロローベル Käte Strobel は、「階級のない病院」 Klassenloses Krankenhaus を標語として、保健政策上の諸問題を解決するための特別委員会をただちに召集することを約した。さらに、党首であり首相である W・ブランド Willy Brandt は、演説において、一方において、社会生産の強化の必要を述べるとともに、他方において、社会政策のプラン作成は社会民主主義者の義務であると述べた。

資料 Soziale Demokratie-Abbau von Privilegien!, SPD-Parteitag 1970 bestätigt auch Sozialpolitik des Godesberger Programms, Soziale Sicherheit (Zeitschrift für Sozialpolitik), 19. Jahrgang Heft 6, Juni 1970.

(伊達隆英 健保連)